

日本の人口

統計

POINT

日本の総人口は1億2,644万人である（平成30年10月1日現在）。総人口はさまざまな指標の分母であるからぜひとも覚えておきたい。



わが国の人口の年次比較

	人口 (千人)	人口増減率 (%)
大 9年 (1920)	55 963	-
14 ('25)	59 737	1.46
昭 5 ('30)	64 450	1.56
10 ('35)	69 254	1.38
15 ('40)	71 933	0.78
20 ('45)	72 147	-
25 ('50)	83 200	1.75
30 ('55)	89 276	1.17
35 ('60)	93 419	0.84
40 ('65)	98 275	1.13
45 ('70)	103 720	1.15
50 ('75)	111 940	1.24
55 ('80)	117 060	0.78
60 ('85)	121 049	0.62
平 2 ('90)	123 611	0.33
7 ('95)	125 570	0.24
12 (2000)	126 926	0.20
17 (2005)	127 768	△0.01
22 (2010)	128 057	0.02
27 (2015)	127 095	△0.11
28 (2016)	126 933	△0.13
29 (2017)	126 706	△0.18
30 (2018)	126 443	△0.21

資料 総務省統計局「各年国勢調査報告」
「各年10月1日現在推計人口」等

〈日本の総人口〉(単位千人)

平成29年 126,706 (男61,655<女65,051)

平成30年 126,443 (男61,532<女64,911)

〈人口増加数〉(単位千人, カッコ内は増加率%:概数)

平成29~30年 △263 (△0.21)

人口の推移をみると大正9年から平成12年までの80年間にわが国の人口は7,096万人増加し、大正9年に比べ総人口は約2.3倍となった。

人口増加率は、大正9年から昭和10年までは年率1.4%程度で比較的高かったが、その後、戦中・戦後の混乱期の異常な低下と上昇を経て、昭和25~30年は年率1.4%、30~45年は年率1.0%程度で推移した。その後、戦後のベビーブーム期に生まれた女子が最も出生力の高い年齢にさしかかった46~49年には出生率が上昇し、いわゆる第2次ベビーブーム期を含み、人口増加率も年率で1.5%に上昇した。しかし、48年をピークとして出生率が低下したため、人口増加率も再び低下し、平成7年以降は0.2%前後で推移した後、平成17年には△0.01と、戦後はじめて前年を下回った。

年齢別人口

統計

POINT

老年人口の増加傾向は著しく、平成9年に年少人口を上回り、総人口に占める割合は、平成30年には28.1%となっている。概数は、年少人口1,500万人、生産年齢人口7,500万人、老年人口3,600万人であるが、これは総人口を覚えていれば計算可能である。

なお、日本の老年人口割合は、イタリア、ドイツなどの高齢化率の高いヨーロッパ諸国と比較しても、とりわけ高い水準にある。

わが国の人口の年齢3区分別人口・構成割合及び諸指標の年次比較

	年齢3区分別人口(千人)				年齢3区分別構成割合(%)				指 数			
	総 数	年少人口 (0~14歳)	生産年齢人口 (15~64歳)	老年人口 (65歳以上)	総 数	年少人口 (0~14歳)	生産年齢人口 (15~64歳)	老年人口 (65歳以上)	年少人口 指 数	老年人口 指 数	従属人口 指 数	老年化 指 数
大 9年(1920)	55 963	20 416	32 605	2 941	100.0	36.5	58.3	5.3	62.6	9.0	71.6	14.4
昭10 ('35)	69 254	25 545	40 484	3 225	100.0	36.9	58.5	4.7	63.1	8.0	71.1	12.6
30 ('55)	90 077	30 123	55 167	4 786	100.0	33.4	61.2	5.3	54.6	8.7	63.3	15.9
40 ('65)	99 209	25 529	67 444	6 236	100.0	25.7	68.0	6.3	37.9	9.2	47.1	24.4
50 ('75)	111 940	27 221	75 807	8 865	100.0	24.3	67.7	7.9	35.9	11.7	47.6	32.6
60 ('85)	121 049	26 033	82 506	12 468	100.0	21.5	68.2	10.3	31.6	15.1	46.7	47.9
平 2 ('90)	123 611	22 486	85 904	14 895	100.0	18.2	69.7	12.1	26.2	17.3	43.5	66.2
7 ('95)	125 570	20 014	87 165	18 261	100.0	16.0	69.5	14.6	23.0	20.9	43.9	91.2
12 (2000)	126 926	18 472	86 220	22 005	100.0	14.6	68.1	17.4	21.4	25.5	46.9	119.1
17 ('05)	127 768	17 521	84 092	25 672	100.0	13.8	66.1	20.2	20.8	30.5	51.4	146.5
22 ('10)	128 057	16 803	81 032	29 246	100.0	13.2	63.8	23.0	20.7	36.1	56.8	174.0
27 ('15)	127 095	15 887	76 289	33 465	100.0	12.6	60.7	26.6	20.8	43.9	64.7	210.6
28 ('16)	126 933	15 780	76 562	34 591	100.0	12.4	60.3	27.3	20.6	45.2	65.8	219.2
29 ('17)	126 706	15 592	75 962	35 152	100.0	12.3	60.0	27.7	20.5	46.3	66.8	255.4
30 ('18)	126 443	15 415	75 451	35 578	100.0	12.2	59.7	28.1	20.4	47.2	67.6	230.8

資料 総務省統計局「国勢調査報告」
「各年10月1日現在推計人口」等

〈年齢区分別人口割合〉

平成29年 年少人口：生産年齢人口：老年人口=12.3：60.0：27.7

平成30年 年少人口：生産年齢人口：老年人口=12.2：59.7：28.1

〈人口ピラミッド〉

69~71歳と44~47歳を中心とした2つの膨らみをもつ「つぼ型」。

$$\text{年少人口指数} = \frac{\text{年少人口}}{\text{生産年齢人口}} \times 100$$

$$\text{老年人口指数} = \frac{\text{老年人口}}{\text{生産年齢人口}} \times 100$$

$$\text{従属人口指数} = \frac{\text{年少人口} + \text{老年人口}}{\text{生産年齢人口}} \times 100$$

$$\text{老年化指数} = \frac{\text{老年人口}}{\text{年少人口}} \times 100$$